年間授業計画 新様式例

高等学校 令和８年度（２年次用） 教科 国語 科目 古典探究

教 科： 国語　　科 目： 古典探究　　単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 年次 A 組～ F 組

教科担当者：（①組：柿原）　（②④組：伊藤）　（③組：平良）

使用教科書：（ 大修館書店「古典探究」（古探７０８）　）

教科 国語 の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】実社会に関わりながらそれを向上させるために必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力および他者との関わりの中での表現力、想像力やコミュニケーション力を深める。

【学びに向かう力、人間性等】言葉が持つ価値を深く認識し、自己を継続的に向上させながら言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，古典などを通した先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
第一学期	【古文編 第Ⅰ部】 1 説話 十訓抄 【知・技】 (1)エ(2)ア 【思・判・表】 読(1)イ・キ 2 随筆 徒然草 花は盛りに/今はそのことをなさんと思へど 【知・技】 (1)ア(2)イ 【思・判・表】 読(1)ウ・カ	・和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山…」の和歌を軸に、人物の行動や心情を読み取る。 ・中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・古典などを読むことをとおして、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。【(1)イ】 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連するさまざまな古典の作品や文章などをもとに、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。【(1)キ】 【主体的に取り組む態度】 ・説話文学に興味をもち、登場人物の言動などから多様な価値観を読み取ろうとしている。 ・古典文学と現代のさまざまな作品とのつながりを理解しようとしている。	○	○	○	12
	【漢文編 第Ⅰ部】 1 故事・逸話 知音/画竜点睛/漱石枕流 【知・技】 (1)ア (2)イ・ウ 【思・判・表】 読(1)ア・オ	・漢文調読に習熟する。 ・故事成語の意味の成り立ちを理解し、故事・逸話の叙述のおもしろさを味読する。	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ア】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。【(2)イ】 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。【(2)ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・故事成語に興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	【古文編 第Ⅰ部】 随筆（一）方丈記 行く河の流れ 物語（一）伊勢物語・大和物語 月やあらぬ/姥捨て山 【知・技】 (1)ア・イ (2)イ 【思・判・表】 読(1)イ・カ	・仏教的無常観にもとづく、作者の思想を理解する。 ・対になる表現や比喩などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。 ・歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。 ・古典作品の再創造としてのパロディ（もじり）の面白さに触れる。 ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ア】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。【(1)イ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。【(1)カ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・仏教的無常観にもとづく、作者の考えについて理解を深めようとしている。 ・作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。	○	○	○	16
	【漢文編 第Ⅰ部】 漢詩 近体詩 自然・旅情・憂愁・読み比べ 土佐日記（阿倍仲麻呂の歌） 【知・技】 (1)イ・エ 【思・判・表】 読(1)ア・ウ	・近体詩の名作を繰り返し朗読し、漢文独特の口調に習熟する。 ・近体詩の形式や表現、技法について理解を深める。 ・詩人たちの人生観や自然観についての認識を深める。 ・文学作品を鑑賞する能力を高める。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・近体詩について興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	【古文編 第Ⅰ部】 4 随筆（二）枕草子 すさまじきもの/宮に初めて参りたるころ 【知・技】 (1)ア・エ (2)ア 【思・判・表】	・清少納言の感性と機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わう。	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ア】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふ	○	○	○	12

	読(1)ア・ウ・エ		「読むこと」において、作品の成立と背景や他の作品などとの関係をふまえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。【(1)エ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・宮廷生活の中で語られる作者の感性と機知を理解しようとしている。				
	【漢文編　第Ⅰ部】 3　史伝―『史記』本紀（司馬遷） 鴻門の会/項王の最期 【知・技】 (1)ウ 【思・判・表】 読(1)ア・エ	・長い文章を読み、漢文の読解に慣れる。 ・『史記』と司馬遷について知り、歴史物語のおもしろさを味わう。 ・項羽と劉邦の生涯と世界史で学習したことがらのつながりを理解する。 ・さまざまな人物像をとおして、人間の生き方について考えを深める。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、そのほかの旅情詩や日本の紀行文などについても積極的に調べようとしている。	○	○	○	16
第二学期	定期考査			○	○		1
	【古文編　第Ⅰ部】物語（二）日記 源氏物語：光源氏の誕生／若紫との出会い 更級日記 門出 【知・技】 (1)エ (2)ア 【思・判・表】 読(1)イ・オ	・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・物語中の人物描写などを味わい、作品をとりまく時代の背景、文化的環境についての理解を深める。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。【(1)イ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	16
	【漢文編　第Ⅰ部】思想 師弟（賢哉回也／閧斯行諸／行不由径） 本性（不忍人之心／人之性悪／性猶湍水也） 自然（大道廃、…／小国寡民／曳尾於塗中） 【知・技】 (1)イ 【思・判・表】 読(1)ア・ウ 読(2)ア	・儒家の思想を理解する。 ・孔子と門人たちとのやりとりをとおして、師弟のあり方や孔子の人柄について考える。 ・繰り返し読み、暗唱することをとおして『論語』の思想を深く読み取り、自己の考え方を豊かにする。 ・性善・性悪をめぐる古代思想家の考え方を理解し、人間観形成を助ける。 ・道家の思想を理解する。 ・道家的な生き方と儒家的な生き方の違いについて考える。 ・法家の思想を理解し、法というものと社会の関係を考える。 ・背景となる諸子百家の状況についての理解を深める。	【知識・技能】 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。【(1)ウ】 ・古典などを読むことをとおして、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、本文の構成や展開、たとえなどから思想の内容を理解しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	【古文編　第Ⅰ部】物語（三） 大鏡　花山院の出家 平家物語　忠度都落ち 【知・技】 (1)イ・ウ 【思・判・表】 読(1)ア・カ	・『大鏡』の構成と内容、歴史物語としての特色を理解する ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考える。 ・音便の多用、漢詩文の引用などの軍記物語のすぐれた情景描写の表現を味わう。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。【(1)ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。【(1)カ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・歴史物語の特徴をふまえ、人物や事件についての作者の視点を考えようとしている。	○	○	○	16
第三学期	【漢文編　第Ⅰ部】小説 定婚店 【知・技】 (1)イ・ウ (2)イ 【思・判・表】 読(1)ア・オ	・長文の散文教材を学習することにより、漢文を読解・鑑賞する能力を養う。 ・物語の筋の展開を正確に把握し、表現の構成の巧みさを鑑賞できる能力を養う。 ・再読文字や疑問・反語の用法を中心に、既習の句法について整理し、理解を確かめる。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。【(1)ウ】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・長文に親しみ、小説のおもしろさや表現の巧みさを読み取ろうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	【古文編　第Ⅰ部】和歌・歌謡・歌論 万葉集　古今和歌集　新古今和歌集 無明抄	・和歌の発想や表現、韻律、修辞法など、独自の表現方法を理解する。 ・『万葉集』の歌風の特徴をつかむ。 ・『古今和歌集』の歌風の特徴をつかむ。 ・『新古今和歌集』の歌風の特徴をつかむ。 ・俊成と俊恵の歌論を理解し、両者の違いを把握する。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。【(1)カ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本歌や本説などにも興味をもち、和歌だけでなく当時の歌人や貴族の教養について理解しようとしている。 ・俊成と俊恵の歌論と歌風を理解し、「おもて歌」に含まれる和歌の美意識をつかもうとしている。	○	○	○	7
							合計 156